子供と自然をつなぐ地域プラットフォーム形成支援事業
（学校・地域を避難所と想定した防災キャンプ）

岡山県防災キャンプ推進事業

岡山県

【事業のポイント】

〇岡山県内3市町で、「地域」を単位に、地域住民の参画を得て、防災教育の観点で子どもたちの体験活動を実施する。
〇子どもたちが地域住民とともに防災教育プログラムを体験的に学ぶことにより、自助・共助の意識を身に付けさせ、さらに地域の絆づくりにつなげていく。
◯市町村に対して、防災キャンプの取組事例を紹介することにより普及啓発を図る。

防災キャンプの振り返り（グループ発

1．企画

（1）事業実施の背景

今後発生が予想される南海トラフ巨大地震のほか、予想が難しい上に、今までの予想を超えるような大雨による洪水が近年頻発している状況であることから、住民への防災意識の普及啓発や教育が、これまで以上に求められている。

（2）ねらい

〇子どもたちの体験活動については、「地域」を基礎として、地域の関係機関など住民の参画を得ながら防災キャンプの実行委員会を組織して実施し、地域の教育資源を活用した持続的な取組となるようにしていく。
〇被災時を想定した学校等の避難所における生活体験や防災教育プログラムを地域住民と共に実施することにより、防災の知識を体験的に身につけさせるとともに、自助・共助の意識を身につけさせ、さらには地域の絆づくりにつなげていく。
◯他の市町村に対して、防災キャンプの事例を紹介していき、この取組に広がりを持たせていく。

2. 実施概要

【笠岡市に再委託】実施場所：笠岡市大島海の見える家

（1）運営体制

キャンプ参加：地域の小学生、保護者、地域住民
運営：保護者、地域の各種団体、行政機関

【実行委員会】
公民館、まちづくり協議会、老人会、社会福祉協議会、自主防災組織、PTA、
愛育委員、民生・児童委員、栄養委員、消防団、大島東小学校、青少年健全育成連絡協議会
笠岡市危機管理部危機管理課、笠岡市教育委員会生涯学習課（実行委員会事務局）

（2）開催実績

月　　日	内　　容
1月14日	事業日程の調整及び運営体制の検討
1月20日	笠岡市防災キャンプ第1回実行委員会（内容：組織づくり，実施体制）
2月8日	笠岡市防災キャンプ第2回実行委員会（内容：日程，役割分担，準備物について）
2月27日～28日	笠岡市防災キャンプ

（3）推進月間の設定

特に設定なし

（4）事例の収集と発信

笠岡市ホームページの他、報道機関への連絡により、新聞やケーブルテレビの取材を受け、地域において当該事業を広報した。

（5）意見交換の場の設定

・笠岡市防災キャンプ第1回実行委員会
・笠岡市防災キャンプ第2回実行委員会

（6）新たな青少年体験活動の推進方策の検討と試行

今回実施したプログラムを紹介し、学校以外の団体や指導者を対象とした防災キャンプ体験ができるような仕組みづくりが必要である。

2. 実施概要

【美作市に再委託】実施場所：美作市立英田小学校

（1）実施主体

英田地区行政事務連絡協議会、英田地区自主防災組織、美作市消防団英田方面隊、英田小学校、英田小学校PTA、栄養委員、主任児童委員、美作市総務部危機管理室、美作市消防本部予防課、美作市教育委員会社会教育課（企画運営委員会事務局）

（2）開催実績

月　　日	内　　容
6月4日	英田小学校区防災キャンプ　第1回説明会（保護者対象）
6月25日	英田小学校区防災キャンプ　第1回企画運営委員会
7月2日	英田小学校区防災キャンプ　第2回説明会（保護者対象）
7月6日	英田小学校区防災キャンプ説明会（小学生対象）
7月21日	英田小学校区防災キャンプ　第2回企画運営委員会
9月5日～6日	英田小学校区防災キャンプ

（3）推進月間の設定

市民が台風や津波、地震等の災害についての理解を深め、これに対処する心構えを準備する防災月間の
9月に設置し、市の総合防災訓練と合わせて実施。

（4）事例の収集と発信

「防災とは何か。」をより実感してもらうために市の総合防災訓練を防災キャンプのプログラムに織り込み、成人の防災訓練を体感した。市総合防災訓練では陸上自衛隊、医師会、社会福祉協議会などの多くの団体で実施され、そこに入り込むことで防災意識を高め、その後に子ども主体の防災キャンプに臨むことができた。

山陽新聞及びローカル美作市ケーブルテレビみまちゃんネルが地域の話題として取り上げ、学校では防災キャンプで作成した防災マップ・ハザードマップ等の成果物を学校内に掲示し、地域での防災意識の高揚及び青少年の体験活動の推進、地域連携の必要性について発信を図った。

（5）意見交換の場の設定

地域で活動される行政連絡協議会、自主防災組織、消防団、消防署、学校関係者、栄養委員、主任児童委員、市職員で構成される企画運営委員会を立ち上げた。そこで、子どもが主体となり子ども自身が防災について考え行動できるような有意義な防災キャンプとなるようプログラム編成を行い、運営主体となり防災キャンプに取り組んだ。

（6）新たな青少年体験活動の推進方策の検討と試行

青少年体験活動を通じ、地域の課題や問題などを共有し、子どもを中心に据えた地域づくりを行う。また、複数機関と連携して実施することにより、プログラムに幅を広げることが可能になる。また、子どもを過度に特別扱いするのではなく、子どもたち自身で避難所生活での役割等を考えさせる必要がある。

2. 実施概要

【矢掛町に再委託】実施場所：矢掛町立山田小学校

（1）実施主体
山田地区自治協議会、山田公民館、矢掛町消防団山田分団、山田小学校、山田小学校PTA、 井原消防署矢掛出張所、矢掛町（総務企画課　防災関係部局）、 矢掛町教育委員会（企画運営委員会事務局）

（2）開催実績

月　　日	内　　容
6月9日	第1回矢掛町防災キャンプ事業企画運営委員会
7月2日	第2回矢掛町防災キャンプ事業企画運営委員会
7月18～19日	矢掛町防災キャンプ

（3）推進月間の設定
7月を山田小学校防災月間として定め、小学生や地域住民対して事業実施前に啓発活動を行った。

（4）事例の収集と発信
町報に掲載したり、近隣のケーブルテレビに連絡し取材を受け、テレビ番号放送で情報発信をした。

（5）意見交換の場の設定
矢掛町防災キャンプ事業企画運営委員会を設置し、防災キャンプのプログラム内容について意見交換を行った。また、防災キャンププログラムの中で防災マップの確認際、意見交換を行う場を提供した。

（6）新たな青少年体験活動の推進方策の検討と試行
行政に頼らない自主防災組織を地域で立ち上げ、継続して防災体験活動を実施する必要がある。

３．成果と課題

（1）事業成果

◯成果

・参加した子どもたちにとって、初めて体験することが多く、戸惑う場面もあったが、保護者や地域住民と協力し、安心して活動することができた。今回の体験を災害が起こった際に生かしていきたいとの感想もあった。

・保護者や地域住民からは、体験する大切さを改めて感じたとの感想をいただいた。体験を通じて、個人の体力維持の必要性を改めて認識し、大勢が集まる中での集団生活の大変さを実感することができた。

・今回の防災キャンプを通じ、子どもたちと地域住民がともに活動をすることにより、地域の大人と子どもたちのつながりがいっそう深まったように感じられた。

・地域が高齢化する中で、子どもたちが地域に対してできることなど、子どもたちと大人それぞれが防災に対する重要性や地域における役割について再度考える機会となった。

・今回のプログラムに、地域の総合防災訓練への参加と見学を入れたことで、地域の関係機関や住民が、どのように防災に携わっているかを体験的に学習することができた。

・非常食だけでの生活体験や、様々な地域の方々が避難してくるという想定のもと、不自由な状況下で、老若男女それぞれの視点、相手の立場に立って考えることや団体行動での役割の重要性を、防災キャンプの各実習を通じて参加者が理解することができた。

・知識の学習だけでなく、実習体験を通じて、リーダーシップや自主性を高学年が自然と発揮していた。

・防災マップの確認や、簡易担架作成など、多様な体験学習を行うことで、参加者が地域で想定される土砂崩れ等の災害や、被災時の対応の理解を深めることができた。

・アンケートでは「災害への備えをしていきたい」「家族で話し合う機会を設けようと思う」という意見があり、参加者の防災意識の高揚にも寄与できた。

・プログラムを異なる世代で体験的に学ぶことで、地域における相互扶助の意識が芽生えたことも、成果としてあげられる。

（2）事業運営上の課題

◯課題

・子どもたち主体の事業ではあるが、防災キャンプを通じながら大人が子どもたちに、地形、危険箇所や過去の災害など地域の防災に関する情報などを伝承していくよい機会でもあるため、可能な限り保護者や地域の大人にも積極的に参加を促す必要がある。

・子どもたちや地域住民に参加を促す際は、効果的な体験型の防災教育となるよう、防災キャンプの趣旨や目的をきちんと伝達する必要がある。

・プログラム毎に、ねらい・めあてや振り返りの時間を設けるなど、子どもたちを含め参加者が理解しやすいように進行を工夫する必要がある。

・参加していない地域住民への防災教育・啓発をどのように行っていくかが課題となる。

（3）事業成果の普及啓発の課題

・地域プラットフォームを形成して、子どもたちの体験活動の機会を設けるには、現段階では、準備から開催まで行政が主導しなければならないのが現状である。

・子どもたちのための体験活動の取組を地域が主体となって実施していくためには、まずは防災キャンプなどの体験活動に、地域の関係機関や地域の住民にも実際に参画してもらい、その必要性を感じてもらうことが重要であると考える。また、防災キャンプを指導できる人材の発掘や育成が必要となる。

・今後は、未実施の地域で開催していき、多くの住民に体験してもらう取組を続けていくよう市町村に促していく必要がある。

・また、実施した地域については、一過性のものではなく今後も継続していくことができるよう、地域の核となる関係機関等に実施を促すとともに、実施にあたってはノウハウや他の実施事例の提供等により支援していく必要がある。

・これから実施しようとする地域への手引きとなるよう、引き続き他の都道府県や地域での優良事例を収集しWeb等で情報提供することにより、地域プラットフォームの形成につなげていく。

4. 団体プロフィール

岡山県教育庁生涯学習課
〒700-8670
岡山県岡山市北区内山下2-4-6
TEL:086-226-7596
FAX:224-2035

笠岡市教育委員会生涯学習課
〒714-0081
岡山県笠岡市笠岡1866-1
TEL:0865-69-2153
FAX:0865-69-2186

美作市教育委員会社会教育課
〒709-4234
岡山県美作市江見945
TEL:0868-72-2900

矢掛町教育委員会教育課
〒714-1201
小田郡矢掛町矢掛2677-1
TEL:0866-82-2100
FAX:0866-82-9101